

KSKR
NO.31



パンジーだより

たまきいゆしな



発行 1999年1月
編集 クリエイティブハウス
“パンジー”

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。今世紀最後の年、1999年の新春、気持ちも新たにパンジーの6年を振り返ってみたいと思います。

心身に障害を持つ人たちが地域で自立生活をする社会を目指して、クリエイティブハウス「パンジー」は1993年開所しました。軽作業、パン製造をはじめ、さをり織り、園芸、陶芸などの授産製品作り。ショップパンジー、わくわく活動、男女それぞれのグループホーム、ショートステイ、就労支援などなど、メンバー一人ひとりの悩み、喜びをしっかりと受け止めつつ、支援活動をしてきました。

昨年12月半ばに、障大連セミナーがあり、私は生活部会の分科会に参加しました。吹田にある施設が行なった、北海道地域生活支援センター活動の研修ツアー報告を聞きました。地域で自立生活するのに絶対必要な三条件は、①本人の努力、②支援者の熱意、③地域の理解であり、その順位が③、②、①（本人の努力はささやかでいい）であるという通勤寮の寮長の言葉が報告の中にありました。パンジーがこれまで積み重ねてきたものが、まさにこれであり、その姿勢が地域や行政の理解を得て、形となって現れようとしています。

今、パンジーでは2000年に向けて、「パンジーII（仮称）」の設立を予定しています。パンジーのめざすバリアフリーの世界に向けて、大きくはばたくのです。今年それを具現化させるため、メンバーも職員も超多忙な年になりそうです。6年前の春、パンジーの庭でひっそりと咲いていた三色スマレが、今、たくましく生育した木々と、いろいろな種類のハーブ、バラ、水仙、サルビアなど様々な仲間とともに力強く根付いています。パンジーのメンバーたちとともに。

(河野)



No. 1 いちばんよかったこと。メンバー・職員に聞きました

メンバー編 アラスカでおどった・大阪府交渉で発言した・屠場でウシをたべた・10月20日のぼくの誕生日・屠場で元気の出る話をした・サンヨーで売れるようになった講演がうまくてきた・横浜へ行きました・お肉・おりたくんのはいたつ などなど

職員編 アラスカ・ピープル・サ大会・屠場のうでずもう大会・3000円の金券が当たった・サンヨーで販売できるようになった・屠場での交流・自立したいと思う人が増えた・パンジー祭りでもーちゃんバンドとおどった・RCをはじめた・結婚した



パン部門よい



新年おめでとうございます。パン部門です。この年末、パン部門ではパンの味を見直そう、ということで、パンジーができた頃から、ずっとお世話になっている伊東康三先生を講師に、2日間じっくりと、パンについて研究、開発に取り組みました。やはり毎日同じことを繰り返しているとはいえ、いろいろと忘れていたことも多くて、基本を見直したりする、良い機会になりました。さて、伊東先生ですが、パンの扱いについては、けっこう豪快でアバウトっぽく見せながらも（あくまで見た感じであり本当は精度は高い）、重要なポイントは絶対にはずさない（たとえば生地、釜の温度、発酵時間）、といった感じで良い製品をどんどん作っていました。職員、メンバーともにいいものを見たなあという気持ちになりました。

この経験をもとにこれまで以上によいパンを届けたいと思います。皆様のご協力よろしくお願いします。

(よしたけ)



クリエイティブ部門よい

クリエイティブのへやから中庭が一望できる。ハーブの緑、雑多ではあるが、かわるがわる花も咲いてホッとする。園芸が順調に進み多くの苗が棚に並んでいる。土に触れることになじみのうすかった人も、この二年間で苗を育てる経験を積み、園芸チームは皆はりきっている。今年は卒業記念の鉢の注文が取れて皆で大喜びした。うれしかった。3月に向けて大切に育てている最中。心のこもった鉢にしたいと思う。

クリエイティブでしている作業は色々ある（ハンガーの組み立て、ホッチキス、さをり、陶器、園芸、今はチョコレート販売も）。仕事ぶりはバラバラのように見えるが、各自が自分の居場所みたいなものをもっていて（この仕事をすると落ち着くというような）それがへや全体の調和になっている。皆よく声をかけ合う。「今日はちょっと元気ないな、どうしたん?」「おーい、〇〇さんが箱もって行くから受け取ってあげて」とか。

今までできなかったことができた時は皆がいっせいに「やったあ!」と大きな拍手。この空気がパンジーの日常である。そんな皆のことを知っているから1つでも多く作品としてできたものが売れるといいなあと思う。

この豊かな時代に選ばれる商品の多さを思うと販路を拓げる具体的な努力が問われる。小さなヒントも大切にしていきたいと思う。

(はたなか)

わくわくのページ

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

昨年のわくわく活動では、ヘルパーの大幅な入れ替えがあり、これまでの学生中心のヘルパー構成から主婦や社会人の人たちが多く参加するようになり、人数も増えてきました。ヘルパーの数が増えた分、メンバーからの個別の要望に応じていくことができるのですが、一方で多くのヘルパーに、細かくメンバーの情報を伝えることの難しさを実感しています。

メンバーがわくわく活動を通して、いかに外出を楽しみ、自分の世界を広げ、自信をつけていくか、その支援の方法について、ヘルパーミーティングや2か月に一度の研修会でヘルパーに伝えたり、一緒に学んできました。しかし、そのベースとなる「メンバーをよく知る」ということが、慣れや油断から抜け落ち、結果としてメンバーを危険な目に遭わせたり、保護者にも多大な心配をかけるということが、続いて起こってしまいました。今後、メンバーが安心して参加できるガイドヘルパー活動にしていくために、メンバー紹介カードの見直しと、ヘルパー研修会の内容をより具体的なものにするといったことを検討したいと思っています。

最近のわくわくから

↑さんは、これまで毎回違う、若い女性ヘルパーと外出するのを楽しみに、わくわく活動に参加していました。でも最近になって、年の近いSさんというヘルパーと外出したところ、とてもとても気があったそうです。その後は、Sさんをご指名し、毎回難波へと出かけていきます。何回も行っている難波ですが、Sさんと出かけると、今まで知らなかったことや、新しい物を見つけることができるそうです。

地域で一人暮らしをして十数年の↑さんは、いろんな人たちに支えられてきて、人とのつながりをとても大事にしています。そのことをSさんが気づいてくれたことが、とてもうれしかったです。



次回のわくわく 1月 9日(土) 初もうで
1月 23日(土) わくわく活動
ガイドヘルパー研修会

あけましておめでとう
ショップも今年で4回
年の抱負として、いつも
人に、インタビューをし
うにすれば、ショップにお客さんがきてくれるか」です。



ございます。
目の新年を迎えました。今
ショップの店員をしている
ました。テーマは「どのよ

N君「休憩する暇がないくらい、お客さんに来て欲しい。そのためにはもっと
知ってもらいたいと思う。たくさんの人に呼びかけていくのがいい。例えば配達
にいくときに、学校の先生に配ってもらえるようにチラシを作ったらいい」

Aさん「ショップの仕事は楽しい。コーヒーは2、3杯飲めるほどおいしいの
でそのことをチラシに書いて、配ればいいと思う」

N君、Aさん二人とも宣伝が足りない、もっと呼びかけが必要だといっていま
す。ショップの事を真剣に考えてくれていて頼もしさを感じます。仕事は本当に
楽しくやっているのでそのことをみんなに知って欲しいといっています。ぜひ近
くにくる機会があれば、お立ちよりください。(はまだ)

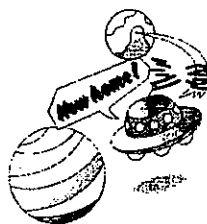


寒い季節、ホカホカごは
りうれしいものですね。ふ
ことですが、パンジーではなかなかむつかしいのです。とはいえ、少しでも近づ
けようといつも考えています。

んとあつあつみそ汁は何よ
つうの家では、当たり前な

たとえば、今していることは、1. たきあがったごはんをいったんジャーにう
つし、食べに来る人の顔を見てからお茶碗によそう。2. 井物の時は、12時直
前に井にごはんをつけ、出来立ての具をのせる。3. 麺類は時間差で食べに来て
もらう、などです。

「湯気の向こうにみんなの笑顔」と口ずさみながら、12時にそなえています。
・・・が時には予期せぬ場面の展開にハチャメチャになることもしばしばです。
ともあれ、一日で一番パンジー内が活気づく時です。そんな活力をみんなから
頂戴しながら、厨房はこの一年を過ごすことができました。(河野)

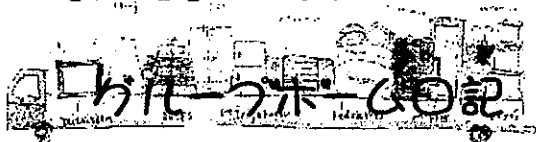


ショートステイ日記

ショートステイはハンジーのメンバーが数多く利用しています。ハンジーでショートステイを始めてから早くも2年近く経とうとするわけですが、最初はただサービスを提供されるだけの「お客さん」であったメンバーが、何度も泊まる中で、みずから生活を作っていく主体として、ショートステイに積極的に参加するようになっていきます。

「また一緒に泊まろうな」とか「次の泊まりはいつ？」と声を掛けられると、月に1、2回のショートステイを本当に楽しみにしてくれているんだなあと思います。

来年度には新しいグループホームもでき、ながらくショートステイを利用してきたメンバーが、自立生活へ向けたステップを踏み出そうとしています。嬉しいことです。これからもメンバーの自立に向け、充実したショートステイにしていきたいと思っています。(ウメ)



来年度の4月に、近くの府営住宅の2LDK1室と3LDK1室を利用して、グループホームをもう一つ開設することになりました。『つばさ』、『あゆむ』に次いで、3番目のグループホームの誕生です。

ところでグループホームの制度は、「働いている人」「日常生活がほぼ一人でできる人」を対象としているということは知っていますか？ ということは、障害の重い人は？ 無認可作業所時代の1991年4月に自立ホーム「つばさ」を開くときに、実際にこんなやりとりがありました。

私たち「親元から自立するので、生活保護を受給したいのですが」

行政「働いていなければグループホームには入れません」

私たち「介護手当も受給したいんですが」

行政「えっ、介護がいるんですか？ 手も足も動くのに」

この壁にあけた小さな穴が、今の『つばさ』『あゆむ』なのです。

障害の重い人、身体障害との重複の人が入るようなグループホームを作りたい――8年の歩みを経た今、さらにもう一步踏み出したいと思います。

グループホームのメンバーの元気な姿を見ていると、「やればできるさ」という気になれます。(広田)



どらえもん会のページ

去年の11月
22日、23日に、
奈良県斑鳩町のいかる
がホールでピープル
ファースト大会が開催さ
れ、約750人の当事
者、支援者が集まりま
した。今回のテーマは
「法律をかえよう」と
いうことで、「施設に
はいきたくない」「私
たちの法律は自分たち
できめたい」という、
意見がたくさん出まし
た。またアメリカの知
的障害者のリーダーで
ある、TJモンローさ
んを招いてアメリカの
法律について話を聞き
ました。T・J・モン
ローさんは、大会の後
「つばさ」に泊まり、
バンジーにも遊びにき
てくれました。

バンジーから参加し
たメンバーの感想を紹
介します。



ピープルファースト大会TJモンローのサインつき。夏になったら、着てきてね！

デートゲームや
もしろかった。酔
くなっておもしろ
ーと話をしたけど
からんかった。ア
何をしてるか聞い
わかったけどあん



結婚の分科会のリ
ーダーを、尾登さ
んと柴田くんと3
人でした。

TJモンローは、
日本の法律を変えようといってた
なあ。日本で働きたいといってい
た。日本のお酒がおいしくて日本
が気に入ったのやろう。グループ
ホームで布団のカバーにはいって
寝ていた。芦原橋でお好み食って、
大阪城へ行った。お好みはおいし
いと言うてた。TJと居酒屋で話
しをしたのが楽しかった。

(生田)



ピープルファースト大会初参加の
田巻さん。毎年参加の久保さん、富
田さんと。ダンスを踊ったり、発表
したり、充実していました。





楽しかったことは、家族の分科会。またあったら行きたい。親とはなれるような話しができるから。

(岡本)



岡本くん、デートゲームで楽しみました。

のパーティーがおぼらって記憶がなかった。TJモンロを言うてるのかわりカの外人さんは、ちょっとはわからなかった。
(梅原)

デートゲームに出られへんかったのがくやしい。夜のパーティーでみんなで踊ったのが楽しい。女の人の友達がたくさんできてよかった。あたしは結婚の分科会にでました。話聞いて、向かい合って話した。結婚した人の話は聞いたけど、あたしはまだ結婚するかわからん。
(富田)

「ダンスが楽しかったです！」
堀川さんの発表。



ファースト大会

僕ははじめてピープルファースト大会で東京の成田空港から、飛行機によって、アラスカへ出発しました。するとノースウエスト航空の飛行機の外から、カナダ一面の国々が見えてきました。飛行機の外、雲一面にならび、外の下を見ていると、雲にかかって、家が箱みたいに見えました。雲がうすくかかった空、あれはロッキー山脈が見えてきた。

こんどTJモンローが日本にやって来るとの話がでました。さてTJモンローはいつ来るのか、僕たちがアラスカに行って、11月頃に来るといっていました。

はじめてTJモンローが奈良にきて、たくさんの人が集まってピープルファースト大会を開きました。ある奈良の桜井の解放会館でTJモンローがおくれてきました。「ユ一、ハロー」とTJモンローが声をかけた。2日目のあくる日に知的障害者の集会がありました。みんなモンローがくると、おおぜいのひとが集まってもりあがった。もー緊張の連続だった。もーあせってしかたなかった。奈良の集会がすむと、自動車で芦原橋近くの居酒屋で、酒をおおぜいでいっせいに飲みあかしあって、わいわいとさわいで頭がぼけてつかれて、それから自動車で帰った。
(肌勢)

22

第5回ヒープルファースト大会in奈良をふりかえ

11月22～23日、奈良で開催された大会に、全国から750人の人が参加した。年を重ねるごとに参加者の数が激増してきた「全国知的障害者交流集会」は、今年から「ヒープルファースト大会」とはっきり打ち出し、アメリカのヒープルファースト運動のリーダーであるT. J. モンローさんを招いて行われた。全体会では「精神薄弱者福祉法」の改正の動きをにらんで「法律をみんなでかえよう！」という難しいテーマに挑んだ。大会の全体的様子は、綴じ込みの新聞記事を参照してもらおうとして、当事者の全国実行委員会（役員会）の支援者として関わってきた立場から、個人的感想を述べてみたい。

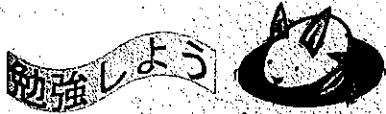
まず最初に、これだけ大規模になった大会を成功させた力は、開催地・奈良の当事者、支援者の熱意とパワーだと思った。プレッシャーの中、「いかるがホール」という大舞台で、みんなが準備し、積み上げてきた成果を発揮している堂々とした姿を見て、とても嬉しかった。実行委員会が定着し、役員になった全国の当事者メンバーも、遠いところから定期的に会議に参加し、当日は分科会のリーダーや報告者としてがんばったことに、心から、お疲れさま！と言いたい。

その次は、なんといってもモンローさんだ。アラスカでのヒープル・ファースト世界大会での出会い・交流が縁で、日本にきてくれることになった。それは、とても素敵なことだ。実際にモンローさんに会ってみて、すごいと思った。全体会の講演で、自信に満ちた力強い話と、参加者の質問に的確に回答する姿はさすが、アメリカのリーダーだと感じた。でも、それ以上に感動したのは、普段のモンローさんが、他人に対する繊細な気配りをする人で、仲間のことをとても大切にしていることだった。モンローさんと一緒にお酒を飲んで話している時のメンバーの嬉しそうなお表情は（言葉にできないくらいいい表情だった）忘れられない。

日本のヒープル・ファースト運動の前進の中で、ハンジーのメンバーも、どこかの国からゲストとして呼ばれるときがくるのかなと思うと、わくわくどきどきした。

もうひとつは、これだけ規模が大きくなったら、いろんな面で整理していかないと運営が大変だということ。大ホールや宿泊設備がある会場を確保していかないと移動だけで労力を使うことになるのだが、豪華な会場ですれば参加費が高額になってしまう。参加費を安くするためにも、やはり財政基盤をどう作っていくのが大問題だなと思った。

大会では、最後にヒープル・ファースト宣言が採択され、代表の高橋章さんから、会場の人に「私たちの意見を厚生省に持っていきましょう！」という呼びかけがされた。「精神薄弱者福祉法」の改正を、単に「精神薄弱」から「知的障害」という呼び方の変更だけに終わらせるのではなく、この法律の目的が「更生と保護」であることに象徴されている差別的で遅れた内容を変えていこう。みんな、厚生省交渉に行こう！（ずし）



あけましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。新年というわけでもないが「言葉とコミュニケーション」は、一回休みにして、今回もちょうといい話を紹介したい。

昨秋のパンジーには、平均年齢68歳の老人が大勢やってきた。大阪府老人大学の受講生で、私のクラス（福祉科）の皆さんである。「福祉は頭だけでなく、心と身体で学ぶもの」を実践してもらったわけだが、メンバーとスタッ

フには、大変お世話になった。初めての実習にほとんどの人が不安な気持ちで参加し、そして予想以上に疲れて、それでも楽しかったと、老犬生は今でも折りにふれ、メンバーたちとのふれあいを語っている。1年前の『パンジーだより』にも若い実習生のことを書いたが、さすが今回は年の功(?)メンバーたちへのかかわりやコミュニケーションによく努力していたように思う。

以下は実習レポートからの抜粋である。
★玄関で訪問したことを告げると、奥の方から“待ってましたよ”とばかりに声を上げて喜んで出迎えてくれたことに、まずびっくり。職員の説明の間も、私どもの名前を一生懸命に覚えようとしてくれるメンバーに感動に似た思いがした。
★ラジカセの前で膝を抱えてしゃがんでいる目の不自由な人は、私がテープを聞かせてと頼むと、なれた手つきで機械を

操作し、「誰の曲？」と聞くと外国の人の名前を教えてくれた。孤独を楽しんでいるのではなかったのだ。

★近くのメンバーに「何しているの」と声をかけたら、奇声をあげ興奮状態になった。熱い鍋が近くにあったので、火傷をしないように祈る思いで、接し方の難しさをひしひしと感じた。彼に申し訳なく、今思い出しても胸が痛む。

★ハンガー250本組み立てて工賃500円とか。採算を目的としないのなら、

教育が目的なのか。職員はどんな信念を持って仕事をしているのだろうか。

★パンを買って帰り、家族友人たちと食べた。と

ても好評だった。これからもおいしいパンを作ってください。

★区役所の玄関でパンやクッキーを販売している障害者たちがいる。ほとんど人は見て見ぬふり。私もそのひとりだった。このあいだ区役所へ行ったとき、私は立ち止まって少し話をした。今までのように素通りできなかつたのである。彼らは生野区の施設の人で、パンジーの話したら「知っている」と言っていた。

★家の近くに、道で出会うと必ず時間を聞く子、個々の家の玄関の戸を点検して歩く子がいるが、彼の行動が理解できるようになった。パンジーでの実習、本当によかった。

改めて、メンバーとスタッフに感謝したい。府下各地に住む老犬生を通して、障害をもつ人たちへの理解と交流の輪が少しでも広がれば、こんなにうれしいことはない。

続・ちよつといい話

中新井 零子



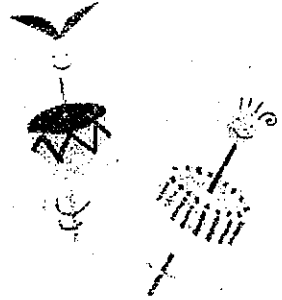
ガイドヘルパー物語

ピープルファースト大会 | N奈良に参加して

深田みゆき

去る11月22日、23日と2日間にかけて、奈良県斑鳩町のいかるがホールで開催されたピープルファースト大会に参加しました。私は、今回が初めての参加でしたが、大勢の人が集い大変な盛り上がりを見せており圧倒されました。参加者の方、みずからが大会を運営し、一人ひとりが言いたいことを言い、場を盛り上げる。100%みんなが主人公の大会だったからこそ、あれだけのハワーあふれる楽しい雰囲気を作り出せたのだろーと思います。ハンジーのメンバーさん達もとても積極的に自分の意見を発表し、様々な人たちと交流を持ち、いつも以上に生き生きとした顔をされていたのが印象的でした。

1日目のプログラムの一つに分科会がありました。参加者全員がそれぞれテーマ別に9つに分かれ話し合いの場を持ったのですが、ヘルパーは皆支援者の分科会に参加し、楠敏雄さんのお話を伺いました。中でも特に障害をもつ人たちの自立についてのお話が印象的でした。楠さんは「自立とは自分で自分の人生を決めて選ぶこと、自分の思いを表現・主張すること」だといわれ、自己決定や自己判断の大切さを述べられました。



その後の「知的な障害をもつ人にとって、自己判断することは困難ではあるが、出来ないことではない。出来ない環境に置かれていることが多い」との言葉がとても印象に残りました。そしてその困難を自分の力で乗り越えるために、自分の力で支援を得ることが重要なのだ、という言葉聞き、障害をもつ方の真の自立とはどういうことなのかというビジョンが、自分のなかで明確化されたような気がしました。支援する側も、支援者としての主体を持ち、どうしても様々な面で情報不足になりがちな障害者に、自分の持っている情報をわかりやすくかみ砕いて伝達するという力量が必要ではないかという考えを聞き、これを自分なりに解釈し、膨らませ、今後に役だてていきたいと思いました。

交流会で酔いつぶれる人あり、それぞれの会で大活躍する人ありの、とても楽しい有意義な大会でした。



SANYOでの販売がはじまる!



12月8日から、大東市の「三洋電気株式会社」で、販売をはじめました。毎週火曜日の昼休みに大きな社員食堂で、焼きたてパンやクッキー、さをりや陶器などを広げます。初日はふるわなかったけれど、2回目はたくさん売れました

お客さんの中には一つ買って「おいしかった」と、また来て、こんどは、どっさり買ってくれる人がいて、こんなふうにパンのおいしさが広がったらいいなと思います。メンバーは、2時過ぎに帰ってくるのだけれど、みんなの声で売れたかどうか、すぐにわかります。初日は静かに帰ってきた。でも2回目はとてもにぎやか。みんながにぎやかに帰ってくる日が続いたらいいな、と願っています。

最後に、バンジーの販売に協力してくださっている大東管理センターと、(株)三洋クリエイティブサービスさんに、感謝します。

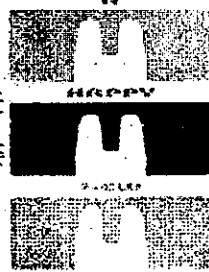
講演会の感想文紹介 富田林市同和教育研究会より (98.11.20)

☞ 思わずひきこまれて聞いていました。私の担任しているクラスにも障害のある子がいますが、その子のことをいっしょに思い合わせ、自立することの大切さをあらためて考えました。障害のある子が自立することは、ない人と比べものにならないぐらいたいへんなことと思いますが、それを乗り越えてがんばっている、みなさんの強さはすばらしいと思いました。

☞ バンジーのリーダーの小学校のころ、ぜんぜん楽しくなかったという話を聞いて、現在養護学級に在籍して、クラスに時々来てくれる子たちが、どんな思いで生活しているかをもっと教師として考えねばと思いました。「あほ」と言われたらどう思いますかという問いをされた時、子どもたちが何気なく言っている言葉をもっといましめ、訴えていかねばと思いました。

☞ みんなしっかり話をされていて、とてもよくわかりました。ようごがっきゅうとかを、いやがっていたので、すこしびっくりしました。そこでのべんきょうもよかったところもあると思うのですが……。

☞ 話をされているときに、お互いに助け合っている姿がとてもほほえましく思えた。仲間意識と協同する体制ができているのがそういう面でも表れていたと思います。個人の意見をしっかりと持っている、主張できる姿に驚きと安心(?)をしました。



書き損じハガキ、(未使用)切手を待っています!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援会費を振り込んでいただいた方> (敬称を略させていただきます)

長田・河合市民法務総合事務所

<カンパ・寄付をいただいた方>

影山久美 菜嶋和彦 老人大学福祉科

<書き損じハガキ・未使用切手をお送りいただいた方>

エンゼル保育園 中野陽介 最田昭子 大倉振興(株) 喜志西小学校

深田みゆき 安積遊歩 水越恵美 梅原義教

<外へ飛び出すためのカンパをいただいた方>



パンジーのメンバーが講演に行きます!

障害者も健常者も共に暮らしやすい社会について、一緒に考えませんか。学校の教師や生徒、知的障害の人々、市民講座、ヘルパー対象など、どこへでもでかけてゆきます!

詳しくは、パンジーまでお電話ください。

【10月・11月・12月の実績】

南河内作業所連絡会・富田林市同和教育研究会

フレンズ・寝屋川市福祉人材バンク



パンジーでは後援会員を募集しています。



賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-3
緑橋グリーンハイイツIF・アート企画気付

一九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎日発行

領価二五〇円